

平成30年度 学校経営計画・学校評価

高知県立山田養護学校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	(1) 高知県東部地域における唯一の特別支援学校として、知的障害のある児童生徒の生活自立と社会自立を目指す一貫した教育を行う。 (2) 障害のある児童生徒の健全な育成を目指し、地域・医療・保健・福祉・労働等の機関との地域連携に寄与する。 (3) 特別支援学校のセンター的機能を目指し、地域の特別支援教育の発展と充実に寄与する。	目 向 け す べ き 組 姿 の 概 要 現 に	平成29～31年度までの中期目標 ○柱Ⅰ ・キャリア教育の視点を重視した授業改善 ・小・中・高等部の授業交流 ・生活単元学習の授業改善 ○柱Ⅱ ・カリキュラム・マネジメントによる教育の質的・継続的な向上 ・一貫性のある各種指導計画等への改善と実施 ・系統性のある教育課程の改善に向けた組織的な取組 ○柱Ⅲ ・地域と連携した南海地震対策の推進 ・スクールバスの南海地震対策 ・広域福祉避難所の設置・運営に関する校内体制の整備
《取組の方向性》	(1) チーム学校の構築 (2) 厳しい環境にある子どもたちへの支援 (3) 地域との連携・協働 (5) 生涯学び続ける環境づくり	児童生徒像	(小学部) ①健康な体づくりができる児童、②基本的生活習慣を身に付けた児童、③友達や集団との関わりの中で共に育ち合う児童、④いろいろなことへの意欲を高め、主体的に活動する児童 (中学部) ①健康の保持増進、体力の向上を図る生徒、②基本的生活習慣の確立ができた生徒、③様々な生活体験や集団活動を通して、社会生活に必要な基礎的な力を身に付けた生徒、④主体的に人々や物と関わる経験を積み、働く力の基礎を身に付けた生徒 (高等部) ①社会生活に必要な体力の増進及び健康を維持・管理する力を身に付けた生徒、②基本的生活習慣や社会性を身に付け、豊かな人間性のある生徒、③社会生活に必要な知識、技能、態度を身に付けた生徒、④働く意義を理解し、働く意欲のある生徒		

《重点取組項目》

項目	目標【P】	評価指標	具体的な取組内容【D】	中間評価【O】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
(一) 授 業 改 善 教 育 の 充 実 (二) 防 災 教 育 を 中 心 と し た 生 活 単 元 学 習 の 取 組 を 重 視 し た	(1) 小・中・高等部の授業交流を通じた学部間の授業の取組を理解する。 (2) 防災教育を中心とした生活単元学習の授業改善を図る。	○全教職員が他の学部等の授業に入って、授業体験を行ったか。 (授業体験実施率:100%) ○挨拶を含めた基本行動を定め、全校的な取組を推進したか。	◇授業体験期間を設定する。 ◇授業体験シートを作成する。 ○全校統一の挨拶の仕方を決める。 ◇教職員も含めた取組に位置づける。 ○防災教育全体計画を作成する。 ◇防災教育を中心とした、「地域とつながる」生活単元学習を実施する。 ◇H29年度に検討・作成した学習指導案を活用した授業を行う。 ○年度初めに研究方針、研究計画(実施方法)を周知する。 ◇新様式による学習指導案での公開授業研究を実施する。 ◇校内研究、学部研究、学年研究などの再構築を行う。 ◇若年教員を研究発表者に充てることを廃止する。 ◇上記の校内研究体制の改善に基づいた「実践的防災教育推進事業」における研究発表を行う。				
(一) 教 育 質 量 の 向 上 (二) 系 統 性 の 有 る 教 育 課 程 の 改 善 に 向 け た 組 織 的 な 取 組 を 行 う。	(1) 一貫性のある各種指導計画等を改善し実施する。 (2) 系統性のある教育課程の改善に向けた組織的な取組を行う。	○個別の指導計画と通知表の一本化が図れたか。 ○個別の指導計画と日々の授業のリンクが図れたか。 ○全学部・全学年を貫いた防災教育に関する単元系統表及び年間指導計画が策定できたか。 ○小中高等部の防災教育を計画的に生活単元学習の中で実施できたか。	◇各種指導計画等の実施手順、様式を決定し、周知する。 ◇個別の指導計画と通知表を一本化し、全校で実施する。 ○個別の指導計画で立てた学習目標の達成を目指して、日々の授業の中で反映した指導を行う。 ◇防災教育に関する単元系統表及び年間指導計画を作成する。 ○防災教育に関する単元系統表に基づいた各学部ごとの計画的な生活単元学習を実施する。 ・個別の指導計画の年間指導計画の中に単元計画を明記し、確実な実施を図る。				
(一) 南 海 地 震 対 策 推 進 (二) 広 域 福 祉 避 難 所 の 設 置 ・ 運 営 関 連 の 校 内 体 制 の 整 備 を 行 う。	(1) スクールバスの南海地震対策を行う。 (2) 広域福祉避難所の設置・運営に関する校内体制の整備をする。	○様々な状況を想定した避難訓練の実施ができたか。 ○実践的防災教育推進事業による効果的な防災教育が行えたか。 ○4市町による広域福祉避難所の設置・運営訓練が円滑に実施できたか。 ○校内体制の整備が進んだか。	◇安心メールを登録する。 保護者80%、教職員100%の登録 ◇学期に1回程度の運行経路上での避難訓練を実施する。 ◇ハザードマップを完成させる。 ○広域福祉避難所設置・運営マニュアルを作成し、教職員の役割分担を明確にする。 ○広域福祉避難所設置・運営訓練を実施する。 ○特に、寄宿舎指導員の対応力を上げる。				
(一) 業 務 改 善 取 組 (二) 平 成 29 年 度 の 業 務 改 善 を ベ ー ス に し、 本 年 度 は 行 事 と 会 議 の 精 選 を 行 う。	平成29年度の業務改善をベースにし、本年度は行事と会議の精選を行う。	○行事と会議の精選を図り、教職員の学校評価アンケートにおける児童生徒と向き合う時間が増えたと感じる割合を50%以上にする。(平成29年度=19.2%)	◇学校行事の精選 ・各学部、学年、分掌部等が実施している行事の現状を把握する。 ・行事内容の重なりを確認し、統合できるかどうか検討する。 ・PTAと連携して実施時期、開催規模(全校・学部・学年・学習集団別)、参加体制、目的の整理を行う。 ◇諸会議の精選 ・年間行事予定に記載されていない会議の内容、現状を把握する。 ・議題内容の重なりを確認し、統合できるかどうか検討し、不必要な会議はやめる。 ・会議の目的、設定時間やゴールを明確にし、遵守する。 ・会議資料の事前配布を行う。				